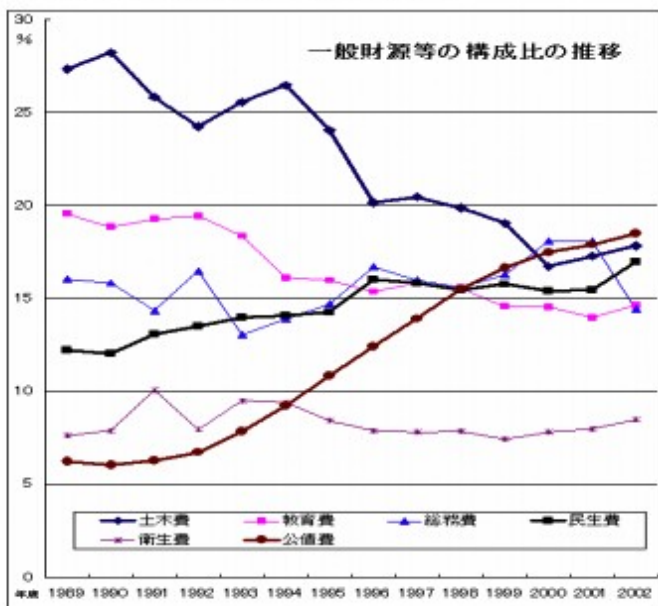


財政から見た、大垣市の現状と10市町の将来

大垣市の財政は・・・

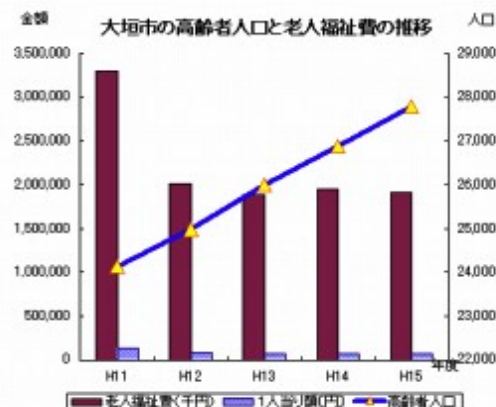
ここ10数年の大垣市の決算を見ると、一般財源の中で公債費（借金返済額）の占める割合が年々増えてきて、平成14年度はトップになってしまいました。一方、高齢者人口は増えても民生費の占める割合はあまり増えていません。また、土木費はバブル期のような異常な割合にはなっていません。

一般財源とは、生活保護費や保育所運営費など使い道が決まっている国庫支出金を除いた市の財源で、その使い方での自治体の特徴がよく分かります。「広報おがき」8月号の平成14年度の決算報告では、民生費が一番多くなっていますが、生活保護費や保育所運営費など国庫支出金が含まれているためです。



大垣の福祉はどのように変化したか・・・

大垣市の過去5年間の老人福祉費の推移をみると、高齢者人口は確実に増え、高齢化率は15.8%から18.06%になっているにもかかわらず、老人福祉費は減少しています。多くの自治体で高齢化とともに民生費が増加しているのは自然の成り行きですが、大垣市の民生費は横ばい、老人福祉費は逆に減っているのが特徴です。



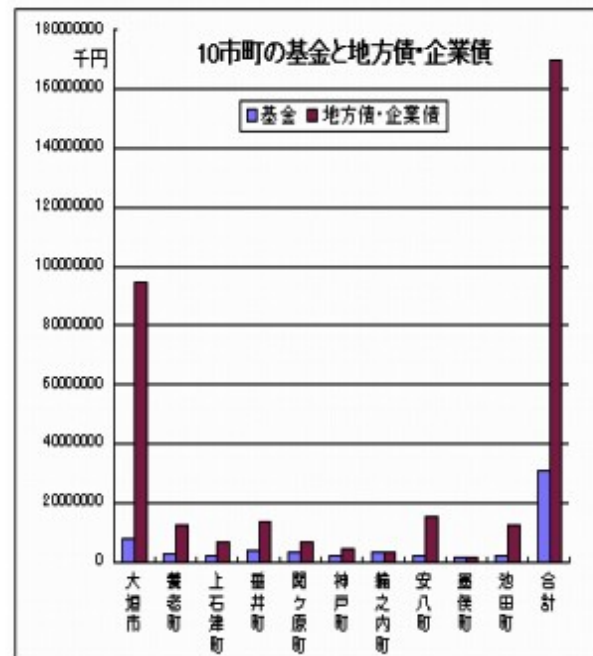
合併で西濃10市町の財政はどうなるのか・・・

西濃10市町の基金合計は約307億円、それに対して地方債・企業債の合計は約169.7億円です。その上、合併特例債約700億円で新市建設の大型公共事業を行おうとしています。現在、新市建設小委員会で検討されていますが、具体的にはまだ何も明らかにされていませ

ん。噂によると、各自治体から出された建設事業費総額は700億円の数倍とも言われ、合併で新たな借金を抱え、益々借金地獄になるのは目に見えています。

大垣市の財政は、今でも公債費負担が重くのしかかり、福祉に予算が回らず、「乳幼児の医療費助成制度」や「30人学級」など市民にとって切実な願いが実現できていません。

アンケートで明らかになった10市町の住民の願い「福祉の町」は、合併とともに益々遠のくのではないのでしょうか。



スポットOgaki、日本共産党に対するご意見・ご質問等はこちらへ

TEL 81-1383 <http://www.sasada-toyoko.jp/> e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp